

令和 2 年 7 月 14 日現在

機関番号：22701

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2019

課題番号：17K04694

研究課題名（和文）近代イランにおける女性教育の推進：イスラームと西洋近代の相克

研究課題名（英文）Expansion of Female Education in Modern Iran: Conflicts between Islam and Modern West

研究代表者

山崎 和美（Yamazaki, Kazumi）

横浜市立大学・国際教養学部（教養学系）・准教授

研究者番号：30513767

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,900,000円

研究成果の概要（和文）：本科研では、ガーજャール朝（1796～1925）末期～パフラヴィー朝期（1925～1979）初頭の近代イラン、特にイラン立憲革命（1905～11）と第一次世界大戦（1914～18）を経た1910～1920年代の女性教育推進を訴える女性運動について、現在に至るまでの社会の変容も考慮に入れつつ考察した。『結婚と離婚』『イランの歴史を知るための50章（仮）』『教養の中東イスラーム近現代史（仮）』『（アカデミー外国語映画賞受賞イラン映画）セールスマン（公式プログラム）』『大学事典』の執筆、日本中東学会公開講演会、イラン大使館や川崎市民アカデミーなどでの講演、科研に関わる研究会での報告を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

教育に限定すれば現代のイランでは男女の教育格差はほぼ解消されており、日本と似た状況にあるともいえる。その一方で依然として多くの課題を抱え、ジェンダー規範による様々な制約に苦悩する女性たちの姿を知ることができる。一方、アフガニスタンやパキスタンなどのサラフィー=ジハード主義組織ターリバーンの影響が大きい地域などで、女性が十分な教育を受けられない地域がある。

本研究課題の主な成果や今後の展望としては、検証した近代や現代のイランの事例が、近隣のアフガニスタンやパキスタンなど、現在女性教育が著しく阻害されている国々にとって、何らかの参考になるのではないかと考えている。

研究成果の概要（英文）：I analyzed women's movements to promote female education and social changes from 1910's to 1920's, from the end of Qajar Dynasty (1796-1925) to the first of Pahlavi Dynasty (1925-1979), comparing the present Iran. During this era Iranian Constitutional Revolution, First World War and Reza Shah's accession changed Iranian Society. In relation to this research, I wrote my papers in the books called Marriage and Divorce, 50 chapters to know Iranian history, Middle East and Islamic Modern and Current History and the Education, Encyclopedia of Universities and Official Program the Iranian Film "Salesman" won Academy Awards. In relation to this research subject, I gave my lectures, in the Public Lecture of Japan Association for Middle East Studies (Annals of Japan Association for Middle East Studies), Embassy of the Islamic Republic of Iran in Japan, Grant-in-Aid for Scientific Research (A): JSPS Research Project on Islam and Gender and Kawasaki City Citizen's Academy, and so on.

研究分野：教育社会学（近現代イラン社会史）

キーワード：イラン近現代史 女性史 教育史 近代イラン 女性教育 女性運動 イスラームと近代西洋 イラン社会と家族

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

1. 研究開始当初の背景

イラン革命(1979)後に成立したイラン・イスラーム共和国(1979～)では、イスラーム法(シャリーア)の重要性が増し、男女の空間分離や公でのヴェール着用が強化された。そのため、現在のイラン女性は「抑圧され声を上げられず教育を受けられない」というイメージを抱かれているように思う。世界経済フォーラムのジェンダー・ギャップ指数(2019)の総合ランキングでもイラン0.584(148位)、日本0.652(121位)である。だが同指数には4項目(政治、経済、教育、医療)があり、両国とも男女格差が政治と経済で大きいものの、教育と医療では小さい。

現在のイランでは教育における男女格差は大幅な縮小傾向にあり、近年は医理工系でのイラン女性の活躍も目立ち、国際数学オリンピックやフィールズ賞を受賞した研究者もいる。大学統一入試合格者に占める女性比率は1998年に52%、2002年に61.5%となって男性を凌駕する状態となり、5割以上の状態が現在でも続いている。医学部の女子学生比率は1999年に70.1%であるなど、現在のイランの大学では、工学部を除く全学部で男子よりも学生数が多い。

イラン革命後の男女隔離強化とヴェール強制の結果、却って、女性の高学歴化と社会進出が進んだ状況は「イランのパラドックス」と呼ばれる。従来、宗教的に敬虔な家庭の娘にとって外出は困難だったが、ヴェールを着用していれば外出しても良いと考える親が増えたことや、イラン・イラク戦争(1980～88)により女性労働力の需要が増大したことが背景にある。

なお、ペルシャ語の資料に関しては、日本で入手することが難しく、現地で調達する必要がある。従って本科研での研究、調査および資料収集のため、2017年度[2017年12月21日(木)～2018年1月1日(月)]、2018年度[2018年12月20日(木)～12月31日(月)]、2019年度[2019年8月4日(日)～8月13日(火)]の日程で、イランとトルコに出張することができた。資料収集に関しては、テヘラン大学近辺の書店街やイスタンブール大学近辺の古書街などで、多くの資料を入手できた。この度本科研費を拝受して出張できたことにより、現地で書店の店主から情報を得ながら、必要なものを探し出し、多くの貴重な文献を入手することができた。イランへの直行便が無いためトランジットでトルコやアラブ諸国などを経由する必要があるが、イランと状況が似ていることから、比較の上でもトルコにも滞在し、重要な文献を入手することができた。2017年度にはペルシャ語書籍(イランの女性・教育・歴史に関する38冊)と英語書籍(トルコの女性・教育・歴史に関する7冊)、2018年度にはペルシャ語書籍(イランの女性・教育・歴史に関する15冊)と英語書籍(トルコの女性・教育・歴史に関する2冊)、2019年度にはペルシャ語書籍(イランの歴史・社会・家族・女性・教育に関する12冊)と英語書籍(トルコの歴史・社会・家族・女性に関する7冊)を入手した。

2. 研究の目的

上記「1. 研究開始当初の背景」で記したように、現在のイランでは、教育における男女格差が大幅に縮小したと言える。その歴史的背景として、パフラヴィー朝による女性政策や教育政策(西欧化・近代化誇示のための女性教育推進策)や、イラン革命後の状況(男女の空間分離徹底による意図せざる結果としての女性教育の拡大)があるとされる。こうした現状に至る契機は、ガージャール朝(1796～1925)末期からパフラヴィー朝(1925～79)初期の近代、特にイラン立憲革命(1905～11)を主とする1910～20年代の女性教育推進を目指す女性運動だと筆者は考えている。立憲革命とレザー・シャーの即位(1925)がイラン社会に大変革を齎し、女性を取り巻く状況を劇的に変えたためである。

以上のことから、本科研の研究課題名を「近代イランにおける女性教育の推進：イスラームと西洋近代の相克(補助事業期間は平成29(2017)年度～令和元(2019)年度)」とした。本研究の目的は、現代イランの状況と比較しながら、ガージャール朝(1796～1925)末期からパフラヴィー朝(1925～1979)初頭の近代イラン(19世紀後半～20世紀初頭)、特にイラン立憲革命(1905～11)と第一次世界大戦(1914～18)を経た1910年代から1920年代の女性教育推進を訴える女性運動について、現在に至るまでの社会の変容も考慮に入れつつ、考察することであった。近代のイラン女性たちが伝統的な社会規範と西欧由来の近代性との狭間で葛藤しつつ生み出した新しい理想的女性像「イラン女性像」はイラン流良妻賢母思想でもあり、現在の女性教育にも大きな影響を与えている。以上を踏まえ本研究では、近代イランの女性たちが尽力した結果が根幹となり、女性への教育機会が徐々に醸成されてきたとの視点に立ち、「男女の空間分離・性的名誉規範などの伝統的な社会規範やジェンダー規範(近現代ではイスラーム法により正当化)」と「近代西洋由来の近代的女性観や近代的家族観」との狭間で揺れ動き、葛藤やジレンマを抱えながらも、「イラン流の近代」を模索する女性たちに関し、検証した。

本科研での研究、調査および資料収集を目的とする2017年度、2018年度、2019年度いずれの出張においても、イランでは2軒の一般家庭を訪問してじっくりと話を伺うことができた。その他、アタテュルク国際空港およびイマーム・ホメイニー国際空港いずれにおいても、両親と一緒に旅行中の女性などから話しかけられ、懇談することができ、イランにおける家族や女性の状況を調査し、女性たちから教育や家族に関する話を多く聞くことができた。本科研における研究テーマでの研究を継続するためには、色々な社会的背景(階層や家族構成、出身地、世代、職業、学歴)を有する女性たちから話を聞く必要があるが、高校生、30歳代の大学院生、40歳代の教育省管理職、60歳代の大家業も営む主婦、などの女性たちと深く交流できた。特に、訪問し

た2つの家族を比較すると、多様で変容を続けるイラン社会と家族や女性の状況を、身をもって知ることができる。例えば、大家である60歳代主婦は都市の中上流階級で、欧米に親族が居り、息子たちが海外に居住している。一方、40歳代教育省管理職の女性の一家は地方出身で宗教的にとっても敬虔であるが、親族が皆優秀で海外で活躍する者や国際的学術研究における賞を受賞した者もいる。このように女性と家族を通して見たイラン社会は、イスラームと西洋近代の相克の多様な在り様を如実に示している。

3. 研究の方法

前述の様に、本科研での研究、調査および資料収集のため2017年度、2018年度、2019年度にイランとトルコに出張した際に、イランの女性・教育・歴史に関するペルシャ語資料とトルコの女性・教育・歴史に関する英語資料を収集した。収集したこれら資料に基づき、後述の「4. 研究成果」に記載したように論文などを執筆した。具体的な研究方法は、以下の通りである：①教育史の整理（国家、民間、女性知識人、外国人などそれぞれのアクターの動向に関して）、②女性史の整理（伝統的状況、イラン立憲革命期、パフラヴィー朝期、イラン革命以降）、③イラン文化の重要要素である宗教史の整理（古代ペルシャ・サーサーン朝とゾロアスター教、サファヴィー朝とシーア派十二イマーム派の国教化、米仏の宗教・文化団体の活動）、④シャリーア（イスラーム法）により正当化される社会規範・ジェンダー規範（男女の空間分離、性的名誉規範、女性のヴェール）の現代と近代の比較、⑤近代的な新しい理想的女性像の形成（女性たちの女性教育推進を求める女性運動、国家による女性運動や女性教育の統制）、⑥近代・現代イランの女性と社会（女性誌、映画、報道などのメディアを題材としての考察）。

またいずれの出張においても、近代の状況と比較するために現代の状況を調査する目的で、教育省の他、大学、小学校・高校（インターナショナル・スクール）などを訪問し関係者にインタビューを実施することができた。複数の大学の教員や教育省職員の方々の支援を受けて、大学や教育省、小学校と高校を訪問することができた。2017年度には、アッラーメ・タバターバーイー大学文学・イスラーム研究学部にて、学部長（男性）、中国語専攻長（女性）、歴史学教員（女性）と懇談し、イランと日本、中国の女性や家族、ワーク・ライフ・バランス、労働環境、学術交流、日本におけるイラン支援などについて意見交換した。また、イラン教育省国際センターを訪問し、同センターに付属しているインターナショナル・スクールに関しては男子小学校と男子高校を訪問した。教育省管理職の女性は国際センターの要職にあるが、働くイラン女性の当事者として仕事内容について話を下さり、在外のイラン人学校で学ぶ子どもたちの教育における現状や課題、イランの学校におけるグローバルな領域に関する現状と課題などについても話してくれた。男子小学校に関しては校長はじめ教員のほとんどが女性であったが、男子高校に関しては校長や教員はほとんどが男性であり、みな教育省から派遣されている。それぞれ校長にインタビューを行ったが、子どもたちは20以上の国々から来ており、在イラン大使館職員の子どもの多いが、イラン人の子どもも通っているとのことだった。色々な文化的背景があるので一緒に教えるのが難しいそうだが、各国の祝祭（クリスマスやピザ・パーティの他、イスラームの祝祭、ペルシャの祝祭）に関わって多くのイベントを実施し、子どもたちがお互いに異文化を理解するよう促しているとのことであった。

2018年度のイラン訪問でも、教育省と大学、小学校・高校（インターナショナル・スクール）などを訪問して関係者へのインタビューを実施できた。特に、2017年度に訪問できなかった女子校を訪問し、教員や生徒たちから話を伺うことができたことは、大きな成果であったと思う。なお、テヘラン大学 World Studies 学部には文科省のトビタテ留学でイランに留学中の山崎ゼミ生を連れて行き、貴重なお話を伺えたことは、非常に重要な経験であった。2019年度のイラン訪問でも教育省と大学、小学校・中学校・高校（インターナショナル・スクール）などを訪問して関係者へのインタビューを実施できた。2018年度に女子校に訪問した際、時間が足りず十分な話が聞けなかったため、2019年度も訪問し、2018年度とは違った女性教員たち（校長、英語および心理学担当、小学校担当、中高担当など）に、外国語教育や外国人教育に関しインタビューを行うことができた。教育省とテヘラン大学 World Studies 学部に関しては、2018年度の訪問時と同じ方々と2019年度も懇談したが、テヘラン大学の2人の教員とはシーア派の聖地ゴムと一緒に訪問し、イスラーム法学者やドイツの観光客などから、イランおよび国際関係に関し、多くの話を聞くことができた。親しくしている教育省職員と大学教員の夫妻とは2019年度も彼らの子どもたちと共に夕食を共にし、仕事と家庭の両立や子どもの教育、大学教育などに関し話を伺った。なお、2018と2019年度には日本企業や報道機関にも訪問し、最近のイラン情勢と国際関係についてお話を伺った。イランとの比較のためにトルコでの資料収集にも力を入れてきたが、2019年度はイスタンブール大学やガラタサライ・リセ高校、キリスト教オーソドクス（ギリシャ正教）の Aya Triada Rum Ortodoks Kilisesi 教会や、多くのイスラーム教のモスクにも立ち寄ることができた。

4. 研究成果

本科研である基盤C「近代イランにおける女性教育の推進：イスラームと西洋近代の相克」（代表：山崎和美）に関連し、以下のような形で、研究成果を発表した。「IG 科研（基盤研究A「イ

スラーム・ジェンダー学構築のための基礎的総合的研究)」にも参加し、学会としては主に「日本中東学会」や「日本イスラム協会」などで活動し、特に前者の学会の学術誌『日本中東学会年報』の編集委員として主査として査読を担当し、後者の学会の学術誌『イスラム世界』でも主査として査読などを担当している。これらの学会やIG 科研での公開講演会や公開セミナーなどでの講演などとも関連させつつ、本科研に関わる研究成果を発表してきた。

(1) 著書・学術論文

「第8章：現代イランにおける様々な「結婚」：女性の高学歴化に伴う晩婚化と若者に広がる「白い結婚」」長沢栄治監修、森田豊子・小野仁美編著『イスラーム・ジェンダー・スタディーズ1：結婚と離婚』明石書店、2019年、217-233頁（総ページ数272頁）

「第3章：イランにおける近代的な女子学校教育の誕生と女性運動：現在のジェンダー格差縮小に至る契機（仮）」服部美奈・小林寧子編『イスラーム・ジェンダー・スタディーズ3：教育とエンパワーメント』明石書店、2020年10月出版予定

「ガージャール朝末期からパフラヴィー朝期の女性運動」八尾師誠編『イランの歴史を知るための50章（仮）』明石書店、2020年出版予定

「活字メディアと女性をめぐる言説：イランの「女性誌」を中心に」佐々木紳・横田貴之・森山央朗編『教養の中東イスラーム近現代史（仮）』ミネルヴァ書房、2020年出版予定

「地域ごとの装い（イラン）」「ジェンダー（イラン）」「近代的学校教育（イラン）」『イスラーム文化事典』丸善出版、2021年出版予定

「イラン社会の変容と女性教育」『記憶と記録にみる女性たちと100年』明石書店、2021年出版予定

(2) 辞典・映画解説

「Review：映画『セールスマン』が映し出す現代イランの家族と女性」スターサンズ・高橋諭吉・平井直子編『セールスマン（公式プログラム）』スターサンズ、2017年、18-19頁

「Review：映画『セールスマン』が映し出す現代イランの家族と女性」スターサンズ編『セールスマン（プレス資料）』2017年、11-12頁

「イランの大学」児玉善仁ほか編『大学事典』平凡社、2018年、204-206頁（総ページ数952頁）

「テヘラン大学」児玉善仁ほか編『大学事典』平凡社、2018年、664頁（総ページ数952頁）

(3) メディア出演

「イランの現実が分かる。映画「セールスマン」から見るイラン女性の現状」2017年6月9日、TBS ラジオ「荻上チキ・Session-22」にスタジオゲストとして出演

(4) 公開講演会・研究会

「IG 科研（基盤研究 A「イスラーム・ジェンダー学構築のための基礎的総合的研究）」に参加し、自身の本科研「近代イランにおける女性教育の推進：イスラームと西洋近代の相克」と共催の形で、公開セミナーや研究会で研究成果を発表してきた。IG 科研の中でも公募研究「砂漠の探究者」を探して：女性たちと百年」と公募研究「イスラーム家族・女性関連法の運用実態の研究」において積極的に研究活動を行った。IG 科研の公開セミナーに関しては2016年度の「イスラーム社会における教育とジェンダー」に続き、2017年度も「イスラーム世界の結婚最前線」において「イランにおける結婚と離婚」という報告を行った。また本科研とIG 科研との共催で開催した家族保護法ユニットの研究会では「日本の家族法における子どもの権利」という研究会を企画し、司会を務めた。

①本科研である科研基盤 C「近代イランにおける女性教育の推進：イスラームと西洋近代の相克」（代表：山崎和美）が実施したもの（いずれも共催の形式で実施）

科研費・基盤研究 A「イスラーム・ジェンダー学構築のための基礎的総合的研究」[研究代表者：長沢栄治（東京大学）] 公募研究会「イスラーム家族・女性関連法の運用実態の研究」[代表：森田豊子（鹿児島大学）] 第5回研究会「日本の家族法における子どもの権利」

日時：2018年10月20日（土）
場所：横浜市立大学 YCU スクエア Y201
司会を担当
<http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~nagasawa/groups/kazokuhou.html>

科研費・基盤研究 A「イスラーム・ジェンダー学構築のための基礎的総合的研究 [研究代表者：長沢栄治（東京大学）]」公募研究会「「砂漠の探究者」を探して（アル=ニサーイーヤート勉強会） [代表：岡真理（京都大学） 事務担当：後藤絵美（東京大学）]」
第4回研究会

日時：2017年7月8日（土）
場所：東京大学 東洋文化研究所 3階 大会議室
研究発表「イラン最初期の婦人雑誌：1910～20年代における女性教育との関わりから」を実施
第7回研究会

日時：2018年3月10日（土）
場所：東京大学 東洋文化研究所 3階 大会議室
松尾有里子（東京大学）「オスマン帝国近代の女性雑誌：投稿欄に見る読者層の変遷」へのコメント担当
<http://www.ioc.u-tokyo.ac.jp/~nagasawa/groups/sabaku.html>

②本科研費による開催ではないが、学会の公開講演会や研究会などで講演・発表を行ったもの

講演「近現代イランの教育とジェンダー」2017年3月10日、科研費・基盤研究 A「イスラーム・ジェンダー学構築のための基礎的総合的研究 [研究代表者：長沢栄治（東京大学）]」「イスラーム社会における教育とジェンダー」公開セミナー（会場：名古屋商科大学）

研究発表「補足：イラン最初期の婦人雑誌」2017年10月8日、科研費・基盤研究 A「イスラーム・ジェンダー学構築のための基礎的総合的研究」（代表者：長沢 栄治）公募研究「「砂漠の探究者」を探して：女性たちと百年」（代表者：岡真理）第5回研究会

講演「イランにおける結婚と離婚」2017年10月22日、科研費・基盤研究 A「イスラーム・ジェンダー学構築のための基礎的総合的研究 [研究代表者：長沢栄治（東京大学）]」公募研究「イスラーム家族・女性関連法の運用実態の研究（代表：森田豊子）」公開セミナー「イスラーム世界の結婚最前線」（会場：北九州市立男女共同参画センター・ムーブ）

講演「イラン女性と100年：イラン版「連続テレビ小説」のヒロインたち」2018年6月6日、かわさき市民アカデミー 世界を旅する⑨イラン・ツアー（会場：川崎市生涯学習プラザ）

講演「現代イランを生きる：「伝統」と「近代」の狭間で挑戦する女性たち」2018年6月9日、イラン・イスラーム共和国文化参事室（イラン文化センター）セミナー「イランでの女性の立場」（会場：品川区総合区民会館）

講演「現代イランにおける結婚と離婚」2018年10月6日、日本中東学会 第24回公開講演会「現代中東における結婚と離婚」（会場：横浜 YWCA）

2014年にノーベル平和賞を受賞したパキスタン出身のマラーラ・ユースフザイさん（1997～）の活動に象徴されるように、アフガニスタンやパキスタンなどのサラフィー=ジハード主義組織ターリバーンの影響が大きい地域などで、女性が十分な教育を受けられない地域がある。筆者は、女性と家族、教育と子どもの問題に関し、イランをはじめとする近現代のイスラーム地域 [中東・北アフリカ、西アジア、旧ソ連圏（中央アジア、コーカサス）、旧オスマン帝国圏（アナトリア半島、バルカン半島）、ペルシャ文明圏、チュルク諸国、アラブ諸国] を対象に研究してきた。特に近現代イランの女性史、教育史に着目し、前世紀転換期のエリート女性たちの女子教育推進活動が土台となり、現在のイランにおける女性教育の発展につながっているとの視点に立っている。教育に限定すれば現代のイランでは男女の教育格差はほぼ解消されており、日本と似た状況にあるともいえる。その一方で依然として多くの課題を抱え、ジェンダー規範による様々な制約に苦悩する女性たちの姿を知ることができる。

本研究課題の主な成果や今後の展望としては、検証した近代や現代のイランの事例が、近隣のアフガニスタンやパキスタンなど、現在女性教育が著しく阻害されている国々にとって、何らかの参考になるのではないかと考えている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計11件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 山崎和美	4. 巻 なし
2. 論文標題 イランの大学	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 児玉善仁ほか編『大学事典』	6. 最初と最後の頁 204-206
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山崎和美	4. 巻 なし
2. 論文標題 テヘラン大学	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 児玉善仁ほか編『大学事典』	6. 最初と最後の頁 664
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山崎和美	4. 巻 なし
2. 論文標題 現代イランにおける様々な「結婚」：女性の高学歴化に伴う晩婚化と若者に広がる「白い結婚」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 森田豊子・小野仁美編『イスラーム・ジェンダー・スタディーズ1：結婚と離婚』明石書店	6. 最初と最後の頁 217-233頁
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山崎和美	4. 巻 -
2. 論文標題 Review：映画『セールスマン』が映し出す現代イランの家族と女性	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 スターサンズ・高橋諭吉・平井直子編『セールスマン（公式プログラム）』	6. 最初と最後の頁 18-19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山崎和美	4. 巻 -
2. 論文標題 Review: 映画『セールスマン』が映し出す現代イランの家族と女性	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 スターサンズ編『セールスマン(プレス資料)』	6. 最初と最後の頁 11-12
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山崎和美	4. 巻 -
2. 論文標題 活字メディアと女性をめぐる言説: イランの「女性誌」を中心に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 佐々木紳・森山央朗・横田貴之編著『教養としての中東イスラーム近現代史(仮)』	6. 最初と最後の頁 未定
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山崎和美	4. 巻 -
2. 論文標題 パフラヴィー朝期女性運動の系譜	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 八尾師誠編著『イランの歴史を知るための50章(仮)』	6. 最初と最後の頁 未定
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計6件(うち招待講演 4件/うち国際学会 0件)

1. 発表者名 山崎和美
2. 発表標題 イラン女性と100年: イラン版「連続テレビ小説」のヒロインたち
3. 学会等名 2018年6月6日 かわさき市民アカデミー「世界を旅する イラン・ツアー」(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山崎和美
2. 発表標題 2018年6月9日 現代イランを生きる：「伝統」と「近代」の狭間で挑戦する女性たち
3. 学会等名 イラン・イスラーム共和国大使館イラン文化センター・セミナー（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山崎和美
2. 発表標題 現代中東における結婚と離婚
3. 学会等名 2018年10月6日 日本中東学会第24回公開講演会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山崎和美
2. 発表標題 イラン最初期の婦人雑誌：1910～20年代における女性教育との関わりから
3. 学会等名 基盤研究A「イスラーム・ジェンダー学構築のための基礎的総合的研究」公募研究「砂漠の探究者」を探して：女性たちと百年」第4回研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 山崎和美
2. 発表標題 補足：イラン最初期の婦人雑誌
3. 学会等名 基盤研究A「イスラーム・ジェンダー学構築のための基礎的総合的研究」公募研究「砂漠の探究者」を探して：女性たちと百年」第5回研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 山崎和美
2. 発表標題 イランにおける結婚と離婚
3. 学会等名 基盤研究A「イスラーム・ジェンダー学構築のための基礎的総合的研究」公募研究「イスラーム家族・女性関連法の運用実態の研究」公開セミナー「イスラーム世界の結婚最前線」(招待講演)
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>メディア出演 「イランの現実が分かる。映画「セールスマン」から見るイラン女性の現状」2017年6月9日、TBSラジオ「荻上チキ・Session-22」にスタジオゲストとして出演</p>

6. 研究組織		
	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)
		備考